

## 第2部 理学療法卒前教育モデル・コア・カリキュラム

### I. 卒前教育モデル・コア・カリキュラム編成方針

#### 1. 指定する単位数

指定規則は1966年に制定されて以来、3回の改正を経て現在の指定規則（1999年制定）に至っている（巻末資料 p3）。すでに前々回の改正（1989年）で、「選択必修科目 200 時間」という自由裁量制が取り入れられている。そして周知の通り、現行の指定規則では、専門科目は大幅に大綱化された。1999年と言えば、理学療法士養成型態として4年制大学が増加し始める時期に当たり、養成型態の多様化に対応するとともに、各養成校の独自の発展に期待を込めて、自由度の高い教育モデルが採用された。

そこで、本教育ガイドラインでも、大綱化の流れを考慮することとした。また、我が国の医学教育におけるコア・カリキュラム、米国における理学療法学コア・カリキュラムを参照すると、資格要件となる単位数の7割程度をコア・カリキュラムの内容とすることが望ましいとされている。これらのことを考慮し、本ガイドラインでは、指定規則 93 単位の中の 83 単位に相当する内容をコア・カリキュラムとして示すことにした。83 単位という単位数は、4年制大学の卒業要件単位数の約 67%に当たり、コア・カリキュラムとしてはやや少なめである。しかし、我が国の理学療法士養成課程には、3年制の教育課程も存在することから、指定単位数としてはこの程度が適切であると判断した。

#### 2. 指定する教授形態

本コア・カリキュラムとして指定する 83 単位のうち、18 単位を臨床実習の単位として確保し、残り 65 単位を学内教育の単位に充てる。

専門基礎領域の科目では、従来から理学療法教育の中で行われてきた「解剖学」と「生理学」の 2 科目にのみ演習または実習を含むものとした。なお、「解剖学」および「生理学」は、基礎医学において体系化された学問領域であり、理学療法教育に求められる知識の範囲をはるかに超える、あるいは異なる範囲を扱う理論体系である。そこで、本コア・カリキュラムでは「解剖学」の中で、理学療法との関わりの深い領域に対し「人体の構造（学）」、「生理学」の中で、理学療法との関わりの深い領域に対し「人体の機能（学）」という名称を用いた。科目としては、「人体の構造（学）」と「人体の機能（学）」を融合し、「～系の構造と機能」という科目名を用いた。“～系”の部分は、後述する系統別理学療法学の 3 領域との対応を図ったもので、「人体の構造と機能」も 3 科目からなる構成とした。

専門基礎領域の科目では、「人体の構造と機能」の 3 科目にのみ演習・実習を含むものとし、「運動学」の実習部分は専門領域の科目の中で教授することとした。

専門領域は“理学療法の基礎”、“系統別理学療法”、“地域理学療法”の 3 つに区分した。これは、現行の指定規則とは一部異なる科目区分となっている。

まず、“系統別理学療法”について、協会における専門領域研究会の区分や欧米諸国における理学療法の領域区分を参考に、障害（疾患）別理学療法としてある程度の区分が可能な3領域（骨関節障害、神経障害、内部障害）を定めた。そして、これらの科目では、各障害に関する基礎知識から理学療法評価、理学療法介入までを系統的に教授することとした。

これに対して、“理学療法の基礎”では、理学療法における基礎理論および、障害（疾患）のタイプによらず、一般的に行われる理学療法評価、理学療法介入を教授することとした。

### 3. 単位制の考え方

現行指定規則は学習時間を単位を用いて定めている。前述の通り、高等教育における1単位とは、45時間の学習を習得したことに対して付与されるものである。また、講義、演習、実習という教授形態により、教室で行う学習と自己学習の時間配分が異なるが、本コア・カリキュラムでは次のように定めた。

- a. 1単位の講義科目は、教室内学習 15時間＋自己学習 30時間
- b. 1単位の演習・実習科目は、教室内学習 30時間＋自己学習 15時間

単位制の取り決めでは、学生が自己学習を行う時間を時間割の中に組み込むことになっている。従って、1単位の講義を1科目設けるならば、時間割上に、1コマの授業時間と、2コマの空き時間（自己学習時間）が含まれていなければならない。自己学習時間に補習を行うことにより学生の自己学習を支援するという教育方法も考えられるが、その場合には補習時間を単位に計上してはならない。

このような単位制の考え方を忠実に守れば、養成校が求める学習内容は、自己学習も含めて、すべて開講期間の週日定時まで習得できることになる。週日の夕方以降および休業日、長期休暇期間には、学生の自由な意思によって、幅広い領域にわたる付加的な学習を行うことが可能である。学生が将来、自ら学習を継続して行くための基本的態度・習慣を養うためには、このような本来の意味での自由時間が必要であると考えている。

#### 4. 理学療法モデル・コア・カリキュラム科目一覧（3年制・4年制共通）

下表に、理学療法モデル・コア・カリキュラムとして指定する科目一覧を示す。

科目名	単位数		備考
	講義	実習・演習	
<b>基礎領域 &lt;計 12 単位&gt;</b>			
「科学的思考の基礎」, 「人間と生活」の内容を含む科目から選択			
<b>専門基礎領域 &lt;計 23 単位&gt;</b>			
<b>人体の構造と機能および心身の発達 &lt;小計 12 単位&gt;</b>			
骨関節系の構造と機能	2	1	“構造”とは解剖学の中で理学療法と関連の深い領域, “機能”とは生理学の中で理学療法と関連の深い領域を指す。
神経系の構造と機能	2	1	
内臓諸器官系の構造と機能	2	1	
運動学	2	0	実習は専門領域の科目で行う。
人間発達学	1	0	
<b>疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進 &lt;小計 8 単位&gt;</b>			
医学概論	1	0	
臨床心理学	1	0	
精神障害と臨床医学	1	0	
骨関節障害と臨床医学	1	0	
神経・筋系の障害と臨床医学	1	0	
小児発達障害と臨床医学	1	0	
内部障害と臨床医学	1	0	
老年期障害と臨床医学	1	0	
<b>保健医療福祉とリハビリテーションの理念 &lt;小計 3 単位&gt;</b>			
保健医療福祉論	1	0	
リハビリテーション概論	2	0	
<b>専門領域 &lt;計 30 単位 (臨床実習 18 単位を除く) &gt;</b>			
<b>理学療法の基礎 &lt;小計 12 単位&gt;</b>			
基礎理学療法学	2	2	理学療法総論と運動学実習を含む。
理学療法基礎評価学	1	2	疾患を問わず共通に行われる評価について学ぶ。
理学療法基礎治療学	2	3	疾患を問わず共通に行われる運動療法および物理療法, 生活支援機器 (PO, W/C 等) について学ぶ。
<b>系統別理学療法 &lt;小計 15 単位&gt;</b>			
骨関節障害理学療法学	3	2	医療領域における理学療法の評価から治療までを総合的に学ぶ。神経障害は発達障害を含む。
神経障害理学療法学	3	2	
内部障害理学療法学	3	2	
<b>地域理学療法 &lt;小計 3 単位&gt;</b>			
地域理学療法学	3	0	
<b>自由裁量時間 &lt;3 年制課程 : 10 単位, 4 年制課程 : 41 単位&gt;</b>			